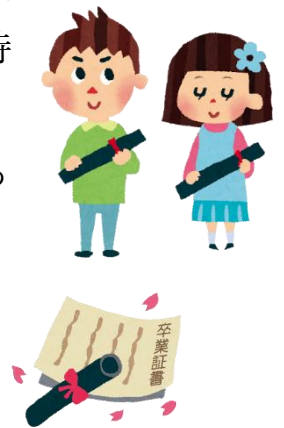




校庭の桜がだいぶ咲き始めた3月25日、小学校の卒業式が行われました。

あいにくの天気となってしまいましたが、在校生のリコーダーの演奏に合わせて、緊張した面持ちの卒業生が入場するところから式が始まりました。

この学年は、コロナ禍の休校中に入学を迎えました。厳しい感染対策のもと、なんとか入学式は行われたものの、すぐにまた自宅待機となってしまったのです。1時間だけの授業を受けに時差登校をしたり、支給されたタブレットでオンラインの授業を受けたりするなど、教室で先生や仲間と過ごせない日々が続きました。ようやく毎日通えるようになって、プール指導や行事も中止になるなど、通常の学校生活に戻るのには時間がかかりました。



ですが、舞台前に卒業生全員が整列して行った「門出の言葉」では、6年間の学校生活を振り返り、心に残った思い出を学年順に聞かせてくれました。この日のために、何度も練習を重ねてきたのでしょうか。小学校生活のスタートが大変だった分、それを取り戻すかのように充実した日々を過ごしたことが伝わってきました。

真新しい制服に身を包む日々が、すぐそこまで来ています。小学校で学んだことや、出会った仲間を大切にしつつ、校長先生のお言葉にあったように、「挑戦することを諦めない人になってほしい」と切に願います。

また、ご来賓の方が、「迷った時は、周りの大人や一番の友達である親に相談してほしい」と、子ども達に伝える場面もありました。民生委員児童委員も、地元の応援団として、子どもたちと声をかけあう関係を大切に、子ども達の成長を見守り続けてまいります。

